

活動例6 「人とかかわりーコミュニケーション」 5歳児 2学期

『リレー』

育てたい力

- ・自分の思いを友達に伝えていく力
- ・相手の思いを受け入れながら遊ぶ力
- ・友達の良さに気付いたり認めたりしていく力

経験させたい内容

- ・勝つためにはどうしたらよいか考え、自分の思いを友達に伝える。
- ・友達の考えや、友達の良さに気が付き、話し合いに取り入れていく。
- ・話を進めていくことで、友達と同じ思い（目的）で遊ぶ楽しさを感じる。

5歳児10月 事例

【クラスの実態】

男児13名、女児13名、計26名 気の合う幼児3〜5人が集まって遊ぶようになってきている。その中では思いを強く出し合ってトラブルになることが多い。教員が話を聞いたり幼児同士で話をする機会をもったりすると、思いの出し方や相手の思いに気付くことができる。一方、自分の思いだけで遊んだりトラブルがあると遊びから抜けてしまったりする幼児もいる。

【活動の流れ】

はじめのうちは好きな遊びの中で教員が働きかけて仲間を呼び集めて始めていたが、自分たちで仲間を呼び集めるようになってきた。また、自分が走りたい友達と走ることを楽しんだり、仲間と一緒に走るという意識が薄かったりしていたが、勝負を意識するようになるにつれて仲間の走る速さに関心をもつようになり、勝つための作戦を相談するようになってきている。

【指導や環境の工夫】

- ・教員も仲間として加わり、仲間や相手を意識していけるように言葉かけをしていく。
- ・一人一人が思いを出し合えるように働きかけたり、みんなの意見がまとまっていくように話し合いの様子を見て一つの意見として提案したりしていく。
- ・子供達が思いを出し合い、話をまとめていくことができるように話し合う時間を保障していく。

【エピソード】『アンカーどうする？』

【記録前の様子】 遊びの時間に「リレーをやろう」「リレーやる人！」と、子供達が声をかけ合い仲間を集めていく。15人ぐらい集まると、それぞれが思い思いにチームに分かれて走る順番を決める相談を始める。自分がやってみたい番号を口にし、それに対して同じチームの友達から返事は返ってくるものの、個々のやり取りで話し合いが進んでいく。

『アンカーどうする？』 チームに分かれ話し合いが始まり出したところで、教員は青チームの話し合いの輪に加わる。T児が「1番やりたい」と言うと「いいよ」と返事があり、1番のゼッケンを手にする。Y児も「4番やりたい」と言うと「いいよ」と返事があり4番のゼッケンを手に取る。

それぞれのチームの順番がある程度決まりかけると、教員は「赤チームも決まってきたみたいだね」と青チームの子供たちに話しかける。Y児は赤チームを見て、「4番はS君だ。」と仲間に向かって言う。その言葉を聞いて仲間たちも自分と同じ番号を付けた青チームの名前を口にします。そんな中、A児はY児に「(相手が) S君だったらYちゃん、自信ある？替わる？」と声をかける。Y児は「うーん。たぶん(走る速さは)同じ位だから大丈夫だと思う。アンカーはどうする？」と仲間に向かって言う。すると再びA児が「(青の) アンカー、R君だよ。速いよね。どうする？」と言うと、M児の「T君は？」の言葉に数名が「速い！速い！」と賛成する。しかし教員はチームの中に、まだ返事をしていない幼児がいるため、「そうだね。T君は速いね。でも、他にアンカーやりたい人がいるかもよ」と声をかける。A児は、「アンカーやりたい人いる？K君やりたい？」と一人一人に気持ちを聞き始める。「T君でいいよ。」「T君速いからいいと思う。」「T君なら勝てるかも！」と全員の意見を聞くと、Y児が「ねえT君、アンカーやってよ。」と声をかけた。T児は「えー、俺かよ！1番と9番(アンカー) かー。」と嬉しそうに言いながら「よし、やるか〜！」と友達の差し出した9番のゼッケンを受け取る。



【その後】 この試合は青チームが負けてしまう。しかし、「がんばったのにね」T君速かったのにね など思いを言い合い、「もう1回やろうよ」と青チームの仲間と話しかける。再度やることになり、話し合いが始まり、「順番どうする？」の声にT児は「R君ともう1回走りたい！」と自分の思いを仲間に伝えた。

予想される活動例

○5、6人〜14、15人位までのグループでの

話し合いの活動

- ・チーム対抗のゲーム
- ・誕生会の司会
- ・お店屋さんごっこ
- ・お楽しみ会のグループでの出し物
- ・生活グループで取り組む活動

【小学校への学び】

- ・自分の思いを伝えたり友達の思いを受け入れたりしながら活動が豊かになる経験を繰り返すことで、仲間と心を通い合わせていく楽しさを味わい、人とかかわり方を身に付けていく。
- ・友達の良さに気付いたり生かしたりしていくことが、楽しさや喜びを味わう経験となり、より相手に関心をもったり思いやりたりする気持ちにつながっていく。